

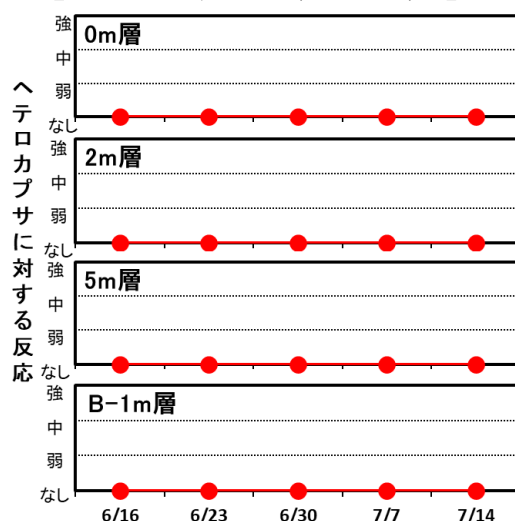
【概況（7月14日 0時～7月15日 0時）】

- ・全層でヘテロカプサに対する反応は『なし』となっています。
- ・7月13日の同地点でヘテロカプサは確認されていません。
- ・7月8日～10日にカレニア ミキモトイに対する反応がみられました。

【今回の測定結果】

水深	ヘテロカプサに対する反応 ※	備考
0 m	なし	7/8、9にカレニア ミキモトイに対する反応がみられました。
2 m	なし	7/8～10にカレニア ミキモトイに対する反応がみられました。
5 m	なし	7/5から溶存酸素低下のため、計測を休止しています。
B-1 m	なし	7/4から溶存酸素低下のため、計測を休止しています。

【直近の状況（5回分）】



※ 指標と殻体運動（波形の例は、WEBに掲載しています。）

強：連続的なスパイク波形と閉殻がみられる。

⇒極度に強いストレスがあり、短時間でへい死の危険がある。

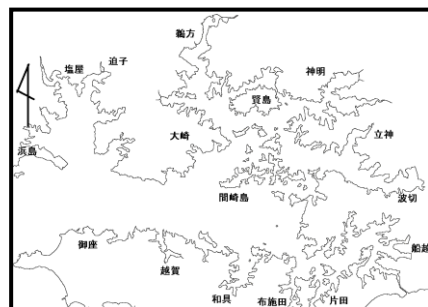
中：連続的なスパイク波形がみられる。

⇒強いストレスがあり、長く続くと衰弱・へい死の危険がある。

弱：スパイク波形の集中が時折みられる。

⇒貝にストレスがかかりはじめる。垂下層の調整や避難の検討を。

なし：応答なし ⇒影響なし。



●本紙について

- ・英虞湾における赤潮被害の軽減を目的とし、(株)ミキモトが開発した貝リングル（二枚貝を用いた生物センサー）の情報を提供しています。
- ・毎週水曜日に発行します。また、臨時で発行することがあります。

●貝リングルについて

- ・二枚貝の殻体運動（殻の開閉）をセンサーで測定し、貝の生理状態（赤潮・貧酸素などの影響）を陸上で把握できます。
- ・英虞湾では、有害プランクトンのヘテロカプサ・サーキュラリスカーマの影響を特に重要視しています。（センサーは、アコヤガイにつけられています。）

●センサーの設置場所と水深

- ・湾奥部（立神浦赤崎）の0・2・5・B-1m層に設置しています。
- ・B-1mとは海底上1mで、赤崎では約7mです。

●利用上の注意点

- ・本情報だけでなく「アコヤ養殖環境情報」等でも、プランクトンの出現状況や海況を把握し、被害対策をしてください。

